

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年 3月 31日

【評価実施概要】

事業所番号	4270104500
法人名	営利法人 有限会社 ゆう
事業所名	グループホーム GARDEN-HOUSE
所在地	長崎県長崎市宝栄町4番19号 (電話) 095-861-0960
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成20年3月11日

【情報提供票より】（平成20年2月18日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成 15年 6月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	17 人
利用定員数計	18 人
常勤	14人, 非常勤 1人, 常勤換算 9.6 人

（2）建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての 1～2 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	28,500 円	その他の経費(月額)	実費
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 60,000円	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食 150 円	昼食 250 円	
	夕食 400 円	おやつ 100 円	
	または1日当たり 900 円		

（4）利用者の概要（ 2 月 18 日現在 ）

利用者人数	18 名	男性 0 名	女性 18 名
要介護 1	4 名	要介護 2	9 名
要介護 3	3 名	要介護 4	2 名
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 82 歳	最低 58 歳	最高 94 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	清原龍内科 つつみ内科クリニック 田中耕三外科医院 みやた歯科医院
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成15年6月に開設されたホームであり、立地的にも松山競技場の側にあり交通の便がよく、家族も立ち寄りやすい。ホームの建物自体、道路に面しており、駐車場のスペースや、敷地内に畑も確保されており、利便性と寛げる空間を兼ね備えたホームである。このホームの特徴は利用者との関係を重視し、利用者、その家族、近隣の地域住民等を理念である「笑顔」で繋ぐ役割を十分職員が意識して日々の介護にあつたっている点である。また職員の年齢的なバランスもよく、経験を積んだ職員が若い職員をよくリードしており、それが利用者の明るさや居心地の良さに反映しているグループホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） ケアサービスについて利用者の言動や状態記録が個別日誌に詳しく記録されるようになり、緊急時対応についても内部勉強会の予定があり、市町村との繋がりについても運営推進会議のメンバーをとおして関わりができてきている。いずれの課題についても全職員で改善に向けて努力をしている。 各職員が自己評価を実施し、話し合いを基にひとつにまとめている。またその中で抽出された改善点について前向きに取り組んでいこうとする姿勢が伺えた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 運営推進会議、包括センターの方、ふれあいセンター長(老人会会長)、民生委員、家族、運営者、管理者で構成されており、会議では現在のホームの状況、理念の説明、行事報告等を情報公開し、利用者や家族、地域の方と運営に対する意見交換を行っている。会議後、地域のふれあいセンターの利用が可能になる等、具体的なサービス向上に繋がっている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 日常的に面会時、意見や要望が出やすいように職員が心がけており、要望については、すぐに対応が成されている。玄関には、苦情ボックスや外部苦情窓口が掲示されているが、重要事項説明書にも外部窓口の連絡先を明記し、より家族にわかりやすくし運営へと反映されることを期待する。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 自治会行事への参加、ホーム内の畑で収穫した野菜を近隣に配る等、地域の一員としての交流がある。また地域の中学の職場体験受入や、保育園児との芋掘り、ちびっこクラブへの参加、敬老会へのお誘いやボランティア受入れもなされている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から掲げている「笑顔」という理念について、今回、地域密着型サービスの理念という点から職員間で話し合い、地域の中でも同様に笑顔が大切であることを再認識していた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関や階段等、目に付きやすい場所に掲示し職員の採用時や、朝夕の申し送り時やミーティング時に理念に触れ、職員も利用者も笑顔で過ごせるように、足りない物を補う関係を大切に日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの側に運営者も居住し、運営者家族が民生委員をしている関係から地域との交流もよく成されている。自治会行事への参加、ホーム内の畑で収穫した野菜を近隣に配る等、地域の一員としての交流がある。また、地域の中学の職場体験受け入れ、保育園児との芋掘り、ちびっこクラブへの参加、敬老会へのお誘いやボランティアの受け入れも成されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は外部評価の意義を理解しており、自己評価も理念共有のきっかけ作りに活かしている。各職員が自己評価を実施した結果を基に作成されている。前回の外部評価結果についてもミーティング時に話し合い改善に取り組んでいた。		

グループホーム GARDEN-HOUSE

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、現在3ヶ月に1回、包括センターの方、ふれあいセンター長(老人会会長)、民生委員、家族、運営者、管理者で構成され行われていた。会議では現在のホームの状況、理念の説明、行事の報告などを情報公開し、利用者や家族、地域の方と運営に対する意見交換を行っている。会議後、地域のふれあいセンターの利用が可能になる等、具体的なサービス向上に繋がっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者がグループホーム連絡協議会の広報部の活動をしており、広報誌配布時、すこやか支援センターとの行き来する機会がある。介護相談員の受け入れ等も行っており、今後も連携できる部分での協力をしていきたいと考えられている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の生活の様子や健康状況、職員異動等については面会時その都度、報告が行われており、面会に出来ない家族には電話での対応を行っている。金銭は預かりはなく、立替後、領収書を提示して請求が成されている。特に家族への定期的な報告としては、個人別に行事の新聞を発行しており、行事の様子など個々の写真や記事を中心に作成して家族から喜ばれている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に面会時、意見や要望が出やすいよう職員が心がけており、要望については、すぐに対応が成されている。玄関に苦情ボックスや外部苦情窓口が掲示されていた。しかし、重要事項説明書に行政機関及び外部受付機関の連絡先が明記されていなかった。	○	重要事項説明書にホーム苦情相談窓口は明記されていたが、行政機関および外部受付機関の連絡先が明記されていないため、追加することを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員採用時にグループホームは馴染みの職員の対応が特に重要なことを話しており、職員の異動、離職がやむを得ない場合、事前に他の職員がフォローできる体制を作り、利用者や家族のダメージを最少にするよう配慮されている。		

グループホーム GARDEN-HOUSE

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会等、研修会は職員に掲示場所を決め知らせており、できる限りの参加を促している。その報告も行われていたが、職員の段階に応じた育成への取り組みについては充分とはいえない。	○	人材の育成という点から、今回、内部研修を始めたことをきっかけに、その先の個別の職員のスキルアップについても計画し、それを基に研修会参加も計画し、それが職員の自信にも繋がることを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会での同業者交流が主である。また女の都に関連施設のグループホームがあり、新年会等に職員間での意見交換を行いサービスの質の向上を目指している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム側の受入基準として自主歩行、食事摂取ができる方としており、入所希望があれば、本人、家族との面談から始まり、ホーム内見学、説明を行い安心して頂き、徐々に馴染めるよう職員が配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者生活歴や、こだわりの把握を行い、利用者本人を知ること努め、いつも笑顔で過ごしてもらえるよう職員一同が心がけている。利用者からは郷土料理や畑仕事等、多くを学んでいる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と日々過ごす中で、信頼関係を作ることに努め、それぞれの理解度に合わせた質問や会話をを行いながら、希望を把握している。また、思いを伝えることが困難な方には、表情や仕草から組み取ったり、家族と密に会話を行い要望を把握するように心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	ケアマネージャーが本人および家族へ希望を直接聞き込み、必要な介護項目をあげ、職員と意見交換しながら、必要に応じて医師との意見も取り入れて介護計画を作成している。特に家族の意見を聞く時には、一度たたき台の計画を作成して具体的な意見を聞くようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	4ヶ月を基本とした定期的な見直しを行っている。また要介護度が変わる場合等、状況変化に応じて、その都度、本人、家族、職員で話し合いの上、計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望に応じて買い物、通院支援、外食等、柔軟に支援を行っている。また、入院している利用者に馴染みの職員が毎日お見舞いに行き安心されている等、出来る限りの支援を行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者一人ひとり入居前からの、かかりつけ医を継続して、通院支援を行っており、結果については家族に伝えている。また、毎月1回、連携医療機関の先生に往診に来てもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期については、今後避けられない問題で、方針の必要性を感じているが、かかりつけ医を含めた、家族との話し合いや意思確認は成されていない現状である。	○	今後、重度化した場合の施設への移行など、できるだけ早い段階でホームとしての方針を決め、それをそれぞれの利用者のかかりつけ医や家族と意思確認を行い、職員間で共有することが望まれる。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護に関しては全職員と誓約書を交わしており、利用者の写真掲載等に関しても個人情報使用同意書を本人、家族に説明の上、同意を得ている。利用者への言葉かけは個々の尊厳を傷つけることのないよう対応されていた。また、記録については所定の場所に保管、必要な場合以外持ち出さないようになっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り利用者のペースを優先している。職員は、急がせないを心掛けており、例えば夕食が食べられなかった場合は夜おにぎりを提供する等、個々のペースを把握しながら柔軟な支援を行っている。		

グループホーム GARDEN-HOUSE

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の楽しみである食事に重きをおき週3日は2ユニット一括したものを専用の調理士を雇い提供している。それ以外の日は各ユニットでメニューも食事作りもしている。食事形態はきざみ食やとろみ食等、より利用者が現在の力を活かせるよう工夫されている。職員も同じ大きなテーブルで一緒に楽しく会話を交わしながら食事をしており、食欲のない利用者には職員がやさしく上手に声をかけ勧めている。また時々配膳や後片付けを手伝ってくれる利用者もいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日で週3回、入浴日は決められているが、一人ひとりの希望にもなるべく対応を行い、利用者が入浴を楽しめるよう支援している。入浴を拒まれる方は時間帯をずらしたりトイレ誘導からお風呂に誘う等、工夫が成されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	配膳や洗濯たたみ等日常の中でできることを、役割としてではなく自然にできる支援が成されている。また気晴らしや楽しみごととしてはピアノの先生に来てもらい歌を歌ったり、朝のラジオ体操時、早口ことばや、しりとりを取り入れたり、郷土料理をみんなで調理、季節のぬりえや貼り絵を楽しんでいる。また10時と15時と2回、おやつ時間を設け、それが利用者の楽しみとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の要望で買い物行ったり、天気の良い日は松山競技場等の散歩等、道路が車椅子に対応しているため車椅子の方も一緒に日常的な外出支援が成されている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠はしておらず、鍵を掛けないケアを実施している。外に出て行きたい利用者に対しては個別の見守りや声かけで対応を行っている。また、敷地内は自由に畑に出る利用者もいる。		

グループホーム GARDEN-HOUSE

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	突発的な災害に備え、年2回想定を変えて防災訓練を行っていることを記録で確認した。その際、近所にも声をかけ、管理者が地域の消防団のメンバーであるため消防団にも来てもらっている。スプリンクラー、火災通報報知設備も整っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事に関する栄養指導は受けていないが、常に栄養バランスや食事量に配慮した献立作成を行っている。食事量や水分の記録は利用者全員分取っており、食事制限のある利用者には医師による指導の基に提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな窓のあるリビングは明るく、利用者は自然とリビングに集まりテレビを楽しんだり、会話をしていた。季節を題材にした利用者手作りの塗り絵や貼り絵、暦があり居心地のよい空間で、管理者も「ここに来れば誰かいる」と利用者に思ってもらえるように心掛けていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室も明るく日用品等、使い慣れた物の持込が可能で本人が落ち着いて過ごせるよう配慮が成されており、利用者は写真や飾り等、それぞれの好みで自由に居室空間を居心地よく工夫されていた。		

※  は、重点項目。